

# 小・中学校と地域が一体となった実践に向けて

下関市立内日小学校

## 学校運営協議会について

コミュニティ・スクールが導入されて7年目を迎えました。内日小・中学校合同での学校運営協議会ということもあり、今年度は、小中連携や校務分掌と連動し双方向にその機能を強化するために専門部会を以下の3つのプロジェクトに改編しました。

専門部会	活動内容
【学びプロジェクト】	学力向上、読書活動の推進、ふるさと学習の充実、家庭学習の充実等
【心プロジェクト】	あいさつ運動の推進、地域とのふれあい活動の充実、ボランティア活動の充実、環境緑化活動等
【健康プロジェクト】	体力向上、運動習慣の充実、柔軟性を高める運動の継続等

各プロジェクトでは、小・中の校務分掌担当教職員が、地域の委員のニーズを受け止めながら、「9年間で育てたい子供像」を意識した活動内容を具現化することができます。

## 特色ある活動

### 『地域が子供たちの学習を支援（学びプロジェクト）』

学力向上を図る目的で夏休みに2日間「サマースクール」を実施しました。主に1学期に学習した内容のプリントを用意し、赤ペン先生として、保護者や地域の有志に呼びかけ、学習支援をお願いしました。地域の方とコミュニケーションを図る場にもなりました。



### 『広がるあいさつの輪（心プロジェクト）』

小・中学校の重点取組として位置付けている「あいさつ」。内日地区にあいさつの輪を広げることをめざし、月に1回、児童生徒の登校時間に合わせて集まりやすいポイントやご自宅前に立っていただけるようチラシを全世帯に配付しました。冷たい雨の日もあいさつ運動のタスキをかけたたくさんの地域の方の姿がありました。

### 『食育と社会性を養う交流給食（健康プロジェクト）』

小・中・地域（学校運営協議会委員）が合同での給食を実施しました。和やかな雰囲気の中で会話を楽しみながら、おいしい給食をいただきました。当日のメニューにある味噌汁には、小・中学生と一緒に収穫したサツマイモを具材とし、みんなで収穫を喜びながら一緒に味わう場の設定をしました。

## 来年度に向けて

今年度は、専門部会を改編したことで、委員が打合せや活動をしやすくなり、いろいろな企画を効率よく取り組むことができました。

内日地区の地域の方は、協議で建設的な意見を出してくださるので、いつも大変有意義な話し合いとなります。

今年度取り組んだ内容については、PDCAを通して、地域の方としっかりと検討します。また、来年度に向けて持続可能で質の高い実践となるよう、小・中学校と地域が連携・協働していきたいと考えています。

# 地域と共にある学校をめざして

下関市立内日中学校

## 学校運営協議会について

実施回数 年間4回開催（小・中合同で開催）

第1回（5月）

○学校経営方針等の説明 ○プロジェクト別協議

第2回（7月）

○熟議 ○1学期の振り返りと今後の活動について

第3回（11月）

○小・中学校授業参観（小中地域合同給食試食会含む）

第4回（2月）

○学校評価、次年度の学校運営方針の承認等



↑「熟議」

## 特色ある活動

### ◆熟議の実施から具体的取組へ

【あいさつ運動】実施日：毎月第3木曜日

内日中学校区の今年度の最重点取組項目を『あいさつ』としており、校区共通の取組（あいさつで心を開き、つながろう）を地域全体に広げ、内日小・中学校、内日地区まちづくり協議会、内日自治連合会が、内日校区青少年健全協議会、子ども見守り活動にあわせて行うこととしました。



↑あいさつ運動の様子

内容は、地域住民が子供たちの登校時間に合わせ、近所の通学路や自宅の前等に立ち、あいさつを交わし、生徒もこの日に合わせ生徒会のあいさつ活動を行い、地域住民と積極的にあいさつを交わすというものです。

地域の大人と子供、子供同士、大人同士がいつも元気にあいさつを交わす明るい地域、お互いの顔が見える安心・安全な地域づくりをねらっています。

### ◆コミュニティ・ルーム（スペース）の活用

【チャレンジ・クラブ】実施日：毎月第2・4木曜日

参加者：地域住民・内日中学校教職員・東亜大学教員

内日中学校が東亜大学の協力も得ながら、地域貢献活動として行っている運動の地域公開講座です。

今年度から、月1回活動後20分程度、参加者同士の親睦の機会として、コミュニティ・ルームを活用し、茶話会「もぐもぐタイム」を行っています。楽しくコミュニケーションをとる中で、地域連携や小中連携等の新たなアイデアにつながることもあり、波及効果を生み出す取組として有効だと感じています。



↑チャレンジ・クラブ後の  
茶話会「もぐもぐタイム」

## 来年度に向けて

業務改善の視点を持ち、生徒減、教職員減のなかでも、生徒だけでなく、関わる地域住民、教職員にとっても充実した取組となるよう、「熟議」を通してアイデアを出し、実行へ移せるCSの運営をめざしたいと思います。